

ほ場に残る窒素量を把握して 必要な分だけ施肥しましょう！

これから収穫が本格化するところですが、生育不良や収量が低いなど、気になるほ場は収穫後に土壌診断を行い、ほ場に残る窒素量を確認しましょう。

1 ほ場に残る窒素量を把握しませんか…？

- ・ れんこんは、主にアンモニア態窒素を吸収します。堆肥や肥料を続けて施用していると、れんこんが吸収しきれなかったアンモニア態窒素が、ほ場に残っています（図1）。
- ・ このような場合、アンモニア態窒素量を測定し、れんこんが吸収できる窒素がどの位残っているか把握して、施肥量を考える必要があります。
- ・ 適正な施肥量を知ることは、過剰な施肥を防ぎ、肥料コスト削減にもつながります。

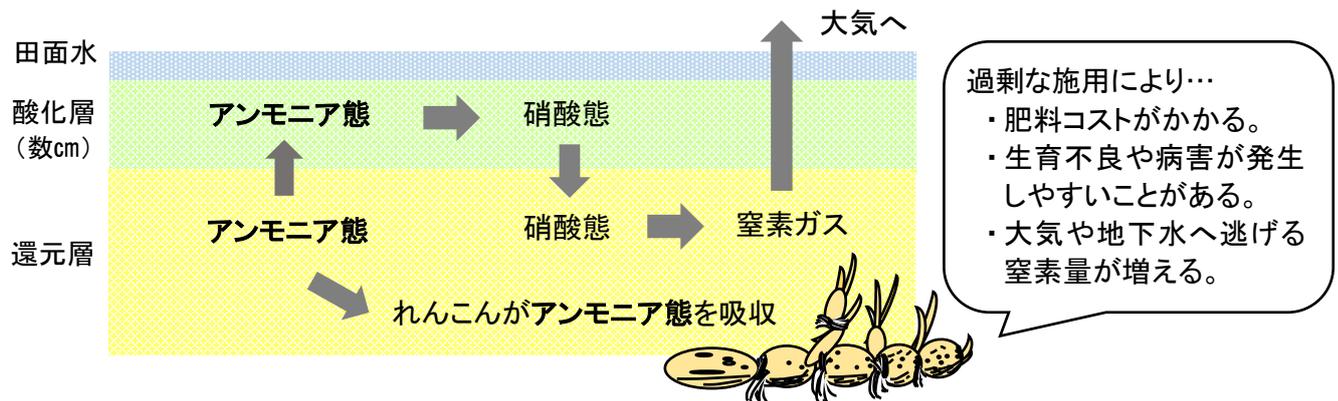


図1 水田の窒素とれんこん

2 ほ場に残る窒素量をふまえた施肥窒素量の計算はどうやるの…？

- ・ ほ場に残っているアンモニア態窒素量と石灰窒素の肥効量をふまえて、施肥窒素量を決めます（図2）。アンモニア態窒素は、全農分析センターや普及センターで測定できます。提出方法などの詳細は、提出先にご確認ください。

施肥窒素量 (kg/10a、ただし計算して 24kg を超える場合は施肥窒素量 24kg/10a とする)

$$= \text{れんこんに必要な窒素量 (36kg)} - \text{土壌のアンモニア態窒素量} - \text{石灰窒素の肥効量}$$

施肥窒素量 (24kg を超える場合は、24kg/10a とする)	土壌のアンモニア態窒素量 (全農や普及センターで測定できる)	石灰窒素の肥効量 (施用量 × 0.1 で求める)
← れんこんに必要な窒素量 (慣行 36kg とする) →		

図2 施肥窒素量の考え方

3 R5年産で実践したハス田の結果は…？

- ・ R5年産で測定したアンモニア態窒素量をふまえて施肥を行い、れんこんを栽培したハス田を調査しました(図3)。

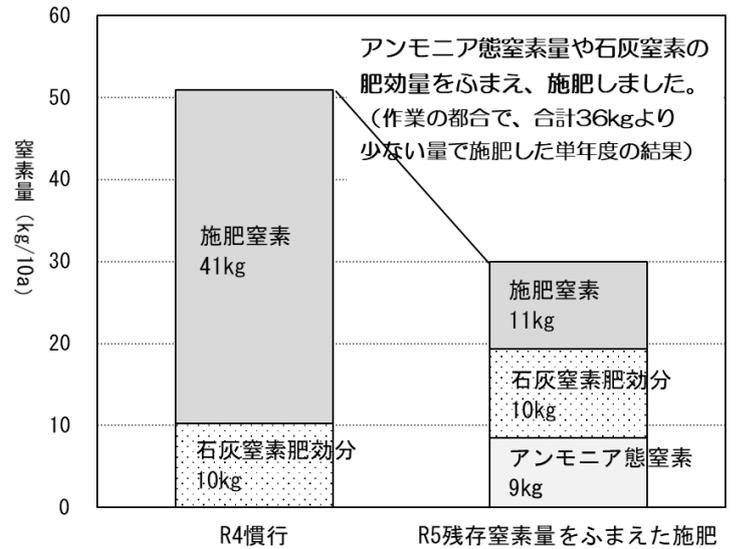


図3 投入窒素量の変化

- ・ 結果、10aあたりの箱数は前年産と同程度、肥料代は前年産より39%削減できました(図4、5)。

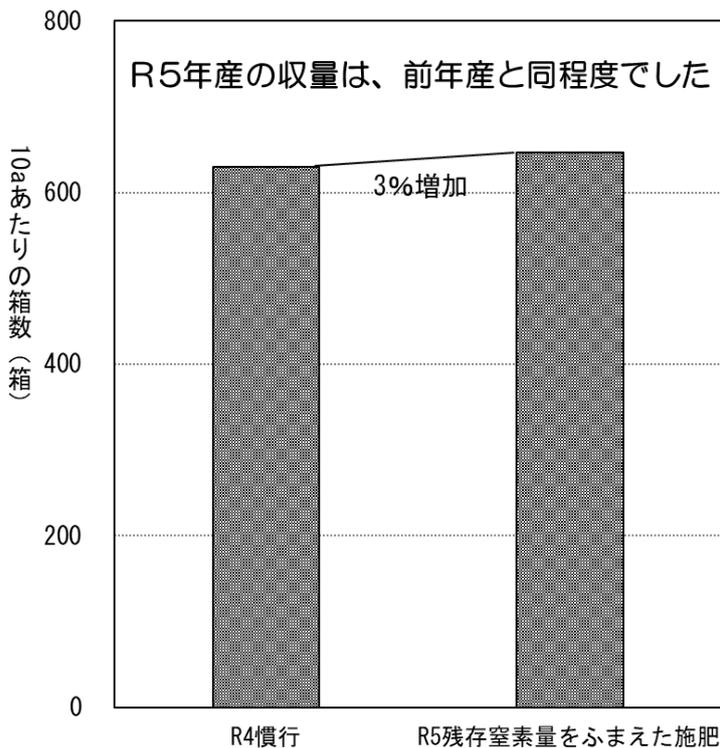


図4 れんこんの収量比較

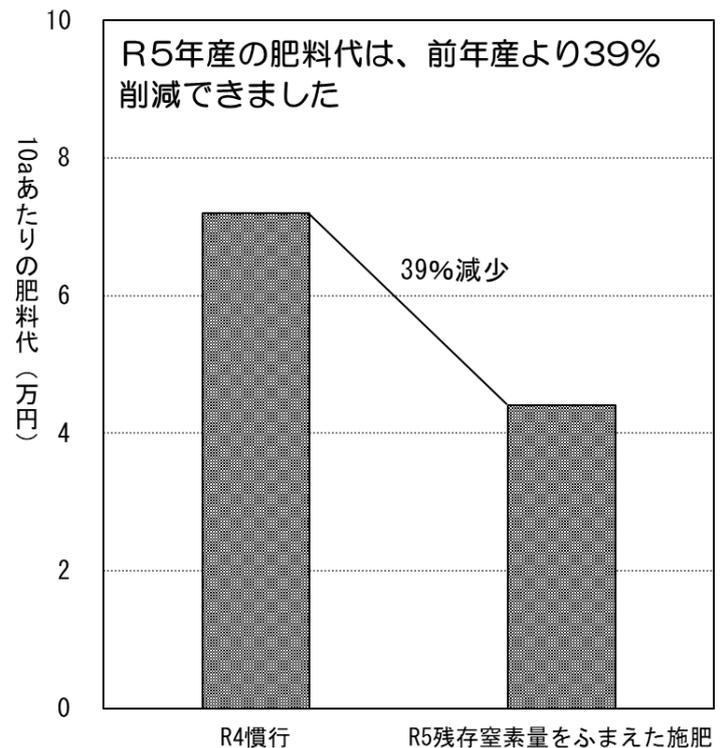


図5 肥料代の比較

調査した結果、収量は変わらないまま、肥料代を減らすことができました。施肥量に悩んでいる・気になるハス田は、土壌診断やアンモニア態窒素測定をご活用ください！